

水道事業の経営状況

山陽小野田市水道事業の状況

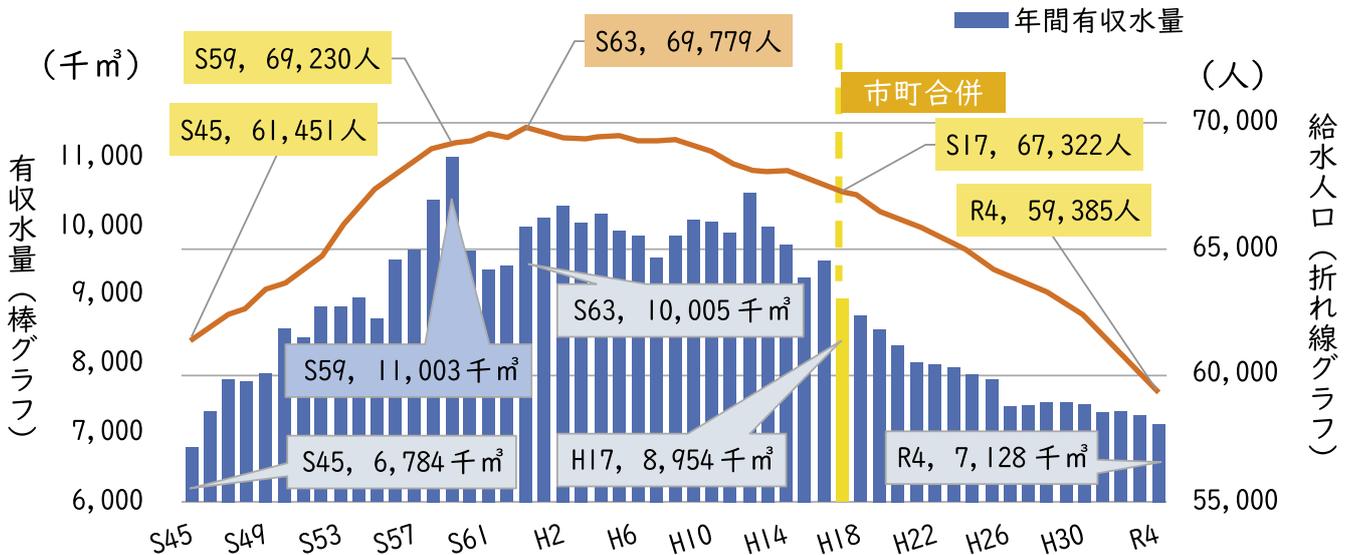
本市の水道事業は、昭和6年に給水を開始して以来、今日まで業務や施設管理の効率化などの経営努力を行いながら、市民のみなさんの生活や社会経済活動に欠かせない安全な水道水を安定して供給してきました。

しかし今後は、人口減少がさらに加速することなどから、これまでの水道料金では、収入が足りなくなることが予測されます。一方で、給水区域の拡大や安定給水のために高度経済成長期に整備した多くの施設が老朽化していると同時に、大規模災害へ備えた耐震化も必要とされています。



①有収水量(水道料金のもととなる水量)の減少

給水している区域の人口減少(市町合併時との比較: ▲11.8%)に伴った使用水量の減少とあわせて、節水機器の普及や企業活動の変化(地下水利用など)によってさらに使用水量が減少しています(市町合併時との比較: ▲20.4%)。



②給水収益(水道料金による収入)の減少

平成17年度以降(小野田地区では平成2年度以降)実質的な料金改定はしていないので、①の有収水量の減少に比例するように水道料金による収入も減少しています。

	平成17年度	平成20年度	平成23年度	平成26年度	平成29年度	令和2年度	令和4年度
有収水量	8,954 千m³	8,277 千m³ (▲7.6%)	7,955 千m³ (▲11.2%)	7,379 千m³ (▲17.6%)	7,457 千m³ (▲16.7%)	7,316 千m³ (▲18.3%)	7,128 千m³ (▲20.4%)
給水収益 (平成17年度比)	15.78 億円	14.56 億円 (▲7.7%)	13.81 億円 (▲12.5%)	12.98 億円 (▲17.8%)	13.18 億円 (▲16.5%)	12.93 億円 (▲18.1%)	12.78 億円 (▲19.0%)